

令和6年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和 7 年 1 月 10 日現在

|       |                               |                         |
|-------|-------------------------------|-------------------------|
| 研究課題名 | サミズダートの比較研究：ポーランドとソ連の亡命出版を中心に |                         |
| 申請者   | 氏名                            | 所属機関・職                  |
|       | 中井杏奈                          | 東京外国語大学 大学院国際学研究科 非常勤講師 |

### 研究成果の概要

今般の研究滞在では、『Aneks』と『Vol'noe slovo』という、それぞれポーランド語とロシア語で刊行された地下出版雑誌に関する調査を行った。『Aneks』は、はじめはスウェーデンのウプサラで、そして後には英国ロンドンを拠点に発行された、1973年創刊の政治・社会批評誌である。『Vol'noe slovo』（帝政ロシアで発行された同名の雑誌とは別で、1972年に創刊）は、当時西ドイツのミュンヘンおよびリンブルク・アン・デア・ラーンを拠点にソヴィエト連邦の人権状況に関する報告を行っていたPossev(Posevとも)という出版社の機関紙である。どちらもいわゆるサミズダート（地下出版物）のうち、国外で印刷・流通されていた「タミズダート」に分類される他、創刊の時期が近いことから、内容を検討することで、双方の亡命知識人・コミュニティの関心の所在について比較の材料を得られるのではないかと考えた。両方の雑誌の発行時期が重なる1970年代の号を中心に、記事や執筆者、取り上げられたテーマなどを確認した。大きな違いとしては、『Aneks』がL. KołakowskiやZ. Baumanのような著名な作家・学者の実名での投稿を中心とし、西欧の話題や著作の紹介・翻訳に多くのページを割くような誌面づくりであるのに対し、『Vol'noe slovo』はソ連邦（各共和国含む）の人権侵害の状況を伝えつつ、時事問題に関する分析が中心となっている。これはおそらく、『Aneks』が1968年（ポーランドの「三月事件」）後に移住したA. Smolerのような知識人を中心に設立されたのに対し、Possevが第二次大戦終結時の難民キャンプに集まったソ連の作家らが立ち上げた活動であるという違いに依拠するもので、『Vol'noe slovo』にアクセスする亡命者コミュニティのほうがソ連の事情を知ることが難しかった様子が窺える。この点は、ポーランド=英国間、ロシア=西ドイツ間の人的往来や交流実態のような外的情報を調べることで、より細かな議論が可能となるだろう。また、人権問題や出版・思想の自由などに関する両雑誌の論調は似通う点があるものの、『Aneks』の編纂方針は社会主義改革路線を引き継ぐもので、「反共」というよりも「反ソ連/反体制」に力点が置かれていることも指摘できる。今回、改めてソ連のサミズダート/タミズダートを網羅的に確認する機会となり、中東欧のサミズダートの共通点よりも差異を強く意識する結果となったが、新たなサミズダート研究の視座も得ることができた。それは、『Vol'noe slovo』（1971/12/20号）に掲載のS. Topolev「サミズダートからコリーズダートへ」（10-27頁）という記事が指摘するように、サミズダートのような活動が民主化運動に寄与しつつも、その流通の限定性や必然的に発生する時差により、民主化運動の徹底を阻んでいる可能性もあるという論点である。出版というメディア形態特有の流通の問題に取り組むことで、「サミズダート=民主化運動/体制転

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。

換に貢献」というこれまでの研究の図式の再考を促すことができるのではないか。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

該当なし

※2025 年 7 月に参加予定の国際学会 ICCEES で成果を発表予定

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

該当なし